



1. 理事会と評議員会をハイブリッド形式で開催

8月23日に第35回理事会を対面とZOOMのハイブリッド形式で開催しました。第34回理事会は対面開催でしたが、昨今の感染者増加の状況を鑑み、今回はハイブリッド形式となりました。当日は、小沢一彦名誉理事長/役職理事候補者指名委員長と、全国から17人の理事、2人の監事が対面出席、オンラインの出席が14人で、計34人の出席となりました。若林紀男理事長が議長として進行役を務め、第1号～第9号の全ての議案につき、原案通り承認可決されました。

【第35回理事会の主な議案】

評議員後任候補者/理事・監事候補者/奨学金給与規定一部改定/2021年度事業報告/2021年度計算書類/2022年度収支予算書一部修正/2022年度専門委員選任 ほか

また、9月12日には第14回定時評議員会を同じく対面とZOOMのハイブリッド形式で開催しました。昨年9月の定時評議員会は新型コロナウイルスの影響により主にオンラインでの開催となりましたが、今回はハイブリッド形式での

開催となりました。当日は、全国から評議員12人、役職理事7人と監事1人が会場参加、16人の評議員と監事1人がオンライン参加しました。定款により、評議員会の議長は、出席評議員の中から選ばれることになっており、第2580地区の上山昭治評議員が議長に選出されました。

上山議長の進行で、報告事項として、①理事会決議報告 ②職務執行の状況報告③2021年度事業報告が資料に基づき説明され、続いて理事会から上程された「後任評議員の選任」「理事・監事の選任」「2021年度計算書類承認」など6議案が諮られ、全て原案通り承認可決されました。

評議員会での理事選任を受けて、同日付で第36回理事会書面決議が成立し、以下の役職理事が選定されました。

理事長：若林紀男氏(2660)

副理事長：滝澤功治氏(2680) 相澤光春氏(2780)

常務理事：井原 實氏(2770) 駒井英基氏(2740)

常務理事：神野重行氏(2760) 田中久夫氏(2840)

2. ジャパンフェスティバルで米山をPR!

8月20日、21日、モンゴルにおける日本関連最大イベント、ジャパンフェスティバルモンゴル(JAPAN FESTIVAL IN MONGOLIA 2022)が国立遊園地のホワイトロックセンターで開催され、モンゴル米山学友会会長のウドワル・セデバザルさん(2010-12/下野上三川RC)をはじめとする13人の米山学友がブースを出展し、米山奨学金や学友会についてPRをしました。また、トブ県バヤンデルゲル郡にある学生寮に図書を寄贈する“図書館プロジェクト”のために本の寄付を募ったところ、多くの方が本を寄付してくださったとのことでした。

2022年は日モンゴル外交関係樹立50周年に

あたり、モンゴル日本センターとJUGAMO(モンゴル帰国留学生の会)の協力の下、記念事業として様々な文化イベントが開催されています。



3. まもなく米山月間資料が届きます (9/21 発送)

10 月はいよいよ米山月間です。今年も米山月間資料を全国の皆さまへお届けします。

毎年恒例の『豆辞典』は、米山記念奨学事業についての情報がほぼ網羅されている小冊子。会員数分お送りしますので、1 人一冊お手元にお持ちください。豆辞典を使って米山奨学事業を説明するためのパワーポイントは、9 月中旬に当会 HP で公開します。そのほか「クラブ米山記念奨学委員長の手引き（寄付マニュアル合

冊）」「2021 年度事業報告書」「2021 年度決算報告」を送付します。追加資料のお申し込みは、同封の「追加資料申込書」に記入の上、お送りください。



オリジナルネクタイ&スカーフ
頒布します
限定ネクタイ&スカーフの頒布
チラシを同封しています！

4. 寄付金速報 — 10 月は米山月間です —

前年同期比

+ 0.9%

普 - 0.6% 特 + 3.9%

8 月までの寄付金は、前年同期と比べて 0.9% 増（普通寄付金: 0.6% 減、特別寄付金: 3.9% 増）で、約 250 万円の増加とな

りました。ここ数年での会員数全体の減少により、当会の普通寄付は減少傾向にあります。少しずつ状況が落ち着くにつれて、対面での例会開催など、これまでの日常が戻ることを期待しています。1 年に 1 度の米山月間、今月もよろしく願いいたします。

5. スリランカの未来へつなぐ

8 月 10 日、国際ロータリー第 2620 地区米山学友会会長の青山チャリットさん(2006-08/静岡日本平 RC)が、同学友会を代表して母国スリランカ北部のアヌラダプラ・ヒドーガマにあるマダワラガマ・カレッジ小学校を訪問し、日本円で約 15 万円分の文房具を寄付しました。

同学友会にとって 3 度目となる教育支援ボランティアの活動先となったスリランカは今、歴史的な経済危機に直面しており、地方には経済的な理由から必要な文房具などを購入出来ない子供たちがたくさんいるそうです。そこで、スリランカ北部地方にある、生徒数 155 人の小学校の子供たちのために文房具を届けることにし



ました。ガソリン不足により現地までの道のりは非常に大変だったそうですが、喜んでいる子供たちの笑顔を見たら、それまでの苦労も吹き飛んだとのことでした。

青山チャリット会長は、「我々学友会にできることは限られていますが、その中でも小学校の子供たちに文房具を手渡すことができました。しかしスリランカには、医療機器の不足など、困っている子供たちがまだまだたくさんいます。今後もロータリアンの方々にご支援とご協力をいただきながら、可能な限りの支援をしていきたいと思います」と述べました。

